

「3・11を忘れない」森村恒雄作品展

5月6日～11日

ギャラリー



からころ

15年前、仕事をリタイヤしたら何をしようかと思っていた矢先、前立腺癌が見つかり、ステージ3で5年後の余命50%と宣告されました。生涯で、し残した何が最も心残りかと考えてみると、子ども頃からずっと絵を描きたいと

いう気持ちが心の奥底にあったなあと思いつきました。

66歳からアトリエ沖田絵画教室に通い始め、基礎から取り組んできました。アトリエLORENという年金者組合のサークルを作り、夜は高槻市絵画同好会に参加して人体クロッキーを学ぶ日々でした。関西平和美術展にはこの間数回、出品させていただきました。

一昨年、新型コロナウイルスが

流行しはじめ、第一次緊急事態宣言が発せられたのを機に画塾を退会し、クロッキーも途切れがちになり、アトリエLORENも休会がちになりました。

ところが、昨年大学病院で前立腺癌のCT検査を受けた折に胸に変なものが映っていると告げられました。いよいよ来たかと思いましたが、血液検査では悪性腫瘍のデータは何も出ていないと手術を

すすめられました。

年が明ければ、東日本大震災十周年です。80歳を越えた今、大震災を描いた絵とともに描き貯めた作品を見ていただければと「ギャラリーからころ」に相談し5月開催を決めました。

今年の2月、大学病院のベッドから無事生還しましたが、新型コロナウイルスの逆巻く浮世の巷、果たして展覧会に来ていただける

かと、大阪府や高槻市の発表にひやひや。連休中には朝日新聞に案内記事が掲載され、DMや電話でお誘いさせていただきました。新型コロナウイルス感染蔓延の内に連休が終わり、展覧会が始まりました。瞬く間の6日間でした。

緊急事態宣言のもと、ご近所の方がたもお越し頂き100人を超えるご来館でした。

ご来館いただいた方々には、力

強く励まされました。年齢のことは置いといて、施策に頑張ろうと気を引き締めております。

ころな禍が猖獗を極める中、ご高覧賜りました方々に厚くお礼を申し上げます。

(儀間比呂志作の絵本、署名入り数点蔵書しております。必要なら写真を送ります)